

# 佐世保の未来 議論

## 人口減・石木ダムなど巡り

佐世保市の未来について考える「ふるさと共創シンポジウム」が9日、アルカスSASSEBOであった。ジャーナリストの田原総一郎氏が司会を務め、市内外から参加したパネリスト4氏が人口減少対策や石木ダム問題などを巡って意見を交わし、市民ら約450人が聴き入った。

早稲田大の講座OBらでつくる一般社団法人「ストーンスープ」などの主催。

まちづくりのついでに、東

京で飲食店を手がける同市出身の女性実業家、櫻澤香氏が「(クルーズ船客向けの)ガイドの養成を」、著書「里山資本主義」で知

られる日本総合研究所首席研究員の藻谷浩介氏が「もっと(地元を自慢する)のぼせもんになって」と、それぞれ提言。一方で田原氏からは「(地域振興で)自衛隊と米軍に甘えているのでは」との指摘があった。

石木ダム問題では、市議の橋之口裕太氏が「市の水

需要予測は全国平均よりも低く、必ずしもでたらめではない」と主張したのに対し、議論が尽くされていないとして反対地権者を支援しているパタゴニア日本支社長の辻井隆行氏は「事業を推進する立場の方がこうした議論に応じるのは意義がある」などと話した。

(具志堅直)

2017.1.11 朝日新聞